

農林振興課 営農指導係からのお知らせ

問 農林振興課 営農指導係
☎476-1111(513)

さつまいも土壌病害(基腐病など)の防除対策



基腐病の特徴・見分け方など

<https://ux.nu/0V1zz>

○基腐病の見分け方

さつまいも関係資料

1 株全体の異常



生育不良, 株の萎縮

2 葉の異常



葉色の明らかな変色
(紫, 赤, 黄色)

3 基部の異常



地際で黒変
(黄色矢印)

4 塊根の異常



←成り口側 しっぽ側→

成り口から変色
形状は崩れにくい

○基腐病の特徴

- ・はじめ, 地際部の茎及び塊根の茎に近い部分が黒色～暗褐色に腐敗する。
- ・被害が進行すると, 茎の上部及び塊根全体に腐敗が拡がり, 乾燥して硬くなり, やがて株が枯死する。
- ・線虫等の食害などによる傷により病原菌の侵入が助長される。
- ・病原菌は植物残さ上で越冬し, 翌年の伝染源となる。

防除対策

- 1 発病した株(つるや塊根)は抜き取り, ほ場や周辺に残さないようには場外で処分する。
- 2 発病がみられたほ場はイネ科牧草などとの輪作を行い, 翌年のさつまいも栽培を控える。
- 3 発病がみられたほ場から種いもを取らない。
- 4 種いもには腐敗, 病害, 傷のない健全いもを使用し, 苗の消毒を確実に行う。
- 5 苗床の土壌消毒を行う。
- 6 植付前には, ほ場の排水対策や土壌消毒を十分行う。

ほ場準備及び管理

- 1 残さ腐熟処理による土壌中病原菌の密度低減
 - ・病害発生ほ場においては, 可能な限り, いも残渣をほ場外へ持ち出す。持ち出しが困難な場合は, 残渣の分解を促進する。
 - ・収穫終了後は, 速やかに完熟たい肥等の有機物をほ場に投入し, 耕耘する(年内2回を目標に)。
- 2 土壌消毒による土壌中病原菌の密度低減
 - ・殺菌効果のある剤(クロールピクリン, バスアミド微粒剤等)で土壌消毒を行う。
 - ・消毒時は土壌中でのガスの拡散を促すため, 適度な土壌水分を確保する。
 - ・土壌消毒時は, ガスの飛散防止や土壌消毒効果を向上させるため,
 - ①クロールピクリンを使用する場合は, 必ずビニール等で被覆する。
 - ②バスアミド微粒剤等を使用する場合は, 必ず鎮圧する。

○土壌消毒剤の特徴一覧

有効成分	商品名	病害	線虫	害虫	雑草
クロールピクリン	クロールピクリン等	○	○	○	○
ダゾメット	バスアミド微粒剤等	○	○	○	○
クロールピクリン+D-D	ソイリーン, ダブルストッパー等	○	○	○	○
D-D	D-D, テロン等	×	○	○	×

企画調整課

税務課

総務課

住民環境課

保健福祉課

大崎町地域包括
支援センター

農林振興課